

2020年3月29日(日)朝10:10～

復活前第2、自由交歓会等

3月第5召天者合同記念主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：天の住まい、生活(21)

聖書:ピリピ° 3章20～21節

＜口語訳＞

新約聖書312頁

フィリピ° 3章20～21節

＜新共同訳＞

新約聖書365頁

ピリピ° 3章20～21節

＜新改訳第3版＞

新約聖書387頁

ピリピ° 3章20～21節＜塚本訳＞

新約聖書628～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**ピリピ書**は、**使徒パウロ**が、**ピリピ教会**の異なる教えによって、混乱しているため、**書簡**を認めた記録です。

◇**ピリピ3章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**福音生活**の**先輩パウロ**を**模範**にしてほしいことと、**天にある生活**を目指してほしいとの祈りと願いが記されています。

◇本日は、**ピリピ3章20～21節**を中心に**天にある生活**を見て、召天者記念礼拝の意義と目指している恵みを分かち合いたいと願っています。

◇**聖書**は、「**霊、魂、肉体**」で地上の人間は構成され、**天の人間**は、**霊と魂**で構成されていると語っています。

⇒ですから、**天と地**の違いは、**肉体**という覆いがあるか、ないかの違いなのです。

⇒人間には、「**心**」があると言いますが、**霊と魂**で構成されているのです。

⇒「**霊と魂**」を与えられている**天と地**は、遠い存在ではなく、「**心と心**」のなのです。

⇒**天にある父母等**は、**心と思い**に近いのです。

本論；

◇本日、ピリピ書3章20～21節から主の使信に思い・心をとめます。

◆ピリピ3章20～21節；使徒パウロは、神の御子イエス・キリスト様の恵みをないがしろにし、敵対する人々に警戒するとともに、常に真実な天の御国生活を目指せと、語っています。

◇3：20～21節；塚本訳◆私達は天国の市民-主は来たり給う

「20 しかし(私達はそうであってはならない。)私達の故国は天にある。私達は主イエス・キリストが救い主として其処から来給うのを待っているのである。

21 (その時)彼は私達の(この)卑しい体を御自分の栄光の体と同じ貌に変え給うのであろう——万物を己に従わせ得給う御力によって！」と、使徒パウロは語っています。

◇3：20～21節で、天国の民の生活を示し(20)、「万物を己に従わせ得給う御力によって」、「私達の(この)卑しい体を御自分の栄光の体と同じ貌に変え給う」と、語る。

◇20～21節；「しかし(私達はそうであってはならない。)私達の故国は天にある。私達は主イエス・キリストが救い主として其処から来給うのを待っているのである(20)」、「(その時)彼は私達の(この)卑しい体を御自分の栄光の体と同じ貌に変え給うのであろう——万物を己に従わせ得給う御力によって！(21)」と、「パウロ」は、「ピリピ教会の人々」に、①「天国」、と②「私達の(この)卑しい体を御自分の栄光の体と同じ貌に変え給う」、「御子イエス・キリスト様の御力」を語っています。

◆①「天国」の「天」は、「地上」と対比され、「神にある領域」で、「国」は、「生活」のことです。「天国」は、「永遠」、「地上」は、終結をもつ「生活」です。

⇒聖書は、「御子イエス・キリスト様」が、「其処・天国」から来て下さると告げています。「天の永遠のいのちを持って」来て下さるので、「地上」で、「永遠のいのち・御子イエス・キリスト様の救いに与った人々は」、「救い主が来て下さるのを待望する」と、告げます。

◆②「御子イエス・キリスト様」が、「私達の（この）卑しい体を御自分の栄光の体と同じ貌に変え給う」ことを告げています。

⇒「御子イエス・キリスト様」が、「地上」に再び来て下さるのは、「私達の（この）卑しい体を御自分の栄光の体と同じ貌に変え給う」ためです。

⇒神の存在と目的を知らされていないか、知らされていても、認めることができない人々は、死が人生の終着点だと考えます。

⇒今日、記念します方々は、「天国」を慕い求めた方々で、「〈新改訳2017〉ヘブル12:1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。」のみことばの通り、「天国での姿変わり」を待望されたのです。

⇒文語訳聖書では、ピリピ3:20を「我らの国籍は天に在り」と、あります。庄原教会の記念納骨堂にも、このみことばが刻まれています。

⇒今年は、今月2日に天に召されたSG兄を  
記念します。

⇒SG兄は、厳しい戦争経験者でしたが、戦後、  
S姉とご結婚、2男1女を与えられました。S  
姉を通して、神信仰に導かれ、教会の青年会  
や役員として、用いられました。気丈なお方  
でしたが、厳しい戦争経験の後遺症があっ  
たようで、在る訪問時、ゆっくり戦争体験  
を話して下さいました。それ以来、温かく迎  
えて下さいました。

## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**ピリピ書**は、使徒パウロが、ローマの獄中から**グノーシス**という救い主(メシヤ)なる**神の御子イエス・キリスト**が人となられたことを否定する人々に悩まされていた**ピリピ教会の人々**を励まし、**ピリピ教会の働き**を喜び、その交わりが豊かなことを感謝しました。物心両面で**パウロ**を勇気づけた教会はなかったからです。
- ◇本日は、**ピリピ3章20～21節**を中心に**天にある生活**を見て、召天者記念礼拝の意義と目指している恵みを分かち合いたいと願っています。
- ◇**聖書**は、「**霊、魂、肉体**」で地上の人間は構成され、**天の人間**は、**霊と魂**で構成されていると語っています。
- ⇒ですから、**天と地**の違いは、**肉体**という覆いがあるか、ないかの違いなのです。
- ⇒人間には、「**心**」があると言いますが、**霊と魂**で構成されているのです。

⇒「**霊と魂**」を与えられている**天と地**は、遠い存在ではなく、「**心と心**」のなのです。

⇒**天にある父母等**は、**心と思い**に近いのです。

⇒ガラテヤ書2:20;塚本訳

わたしはもはや生きていない。キリストがわたしの中に生きておられる。いまわたしが肉体で生きるのは、わたしを愛し、このわたしのために自分をすてられた神の子を信ずる信仰によって生きているのである。



